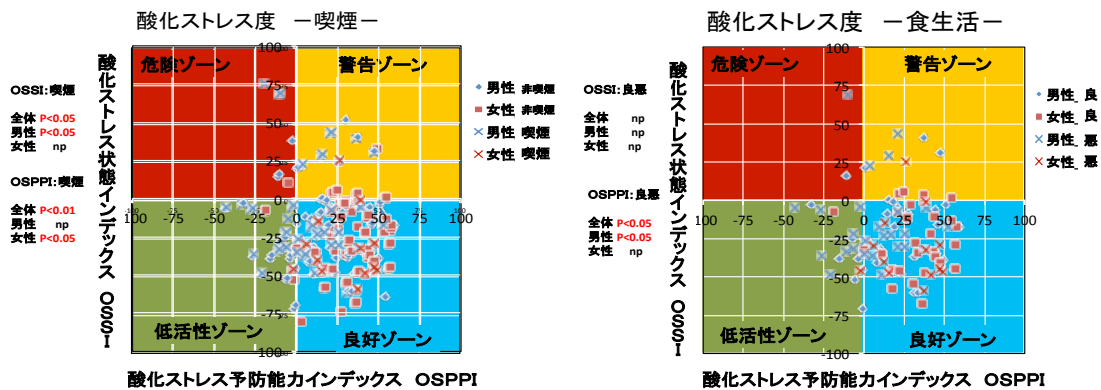


生活習慣と体内年齢、酸化損傷度・抗酸化能の統計学的検討

医療法人アエバ会 アエバ外科病院 草野孝文 樋口拓

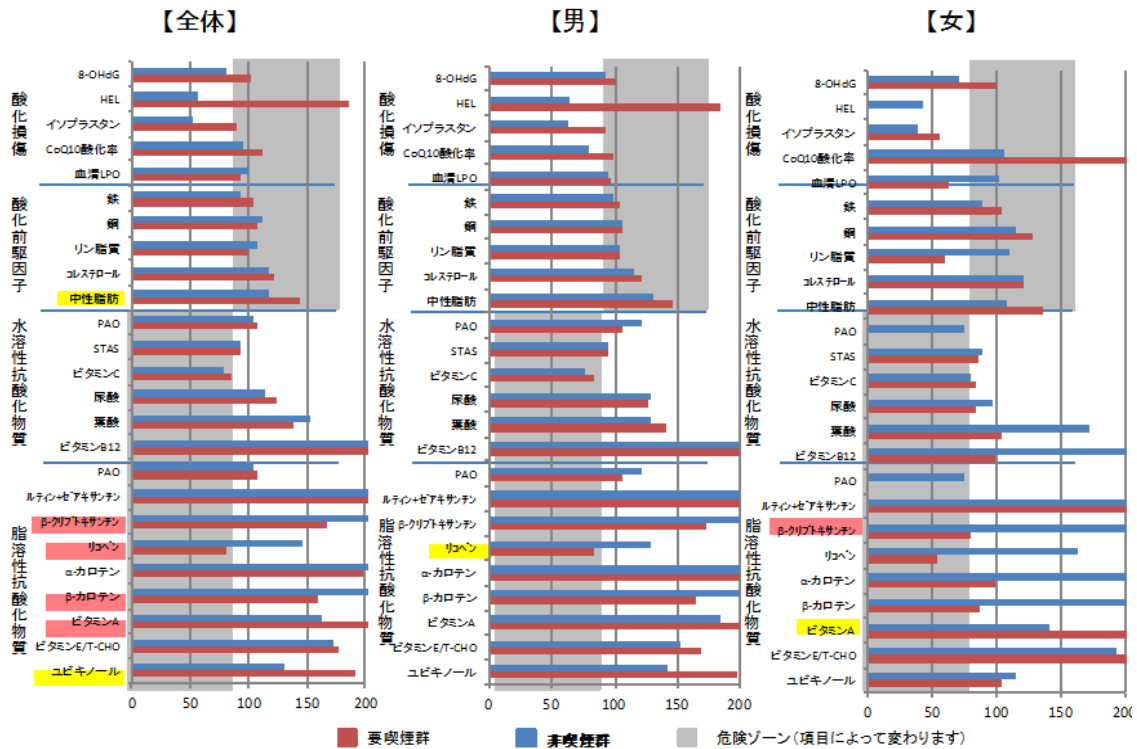
【目的】食、運動、睡眠、喫煙、飲酒、心の症状の生活習慣、メタボリック症候群 (MetS) と体内年齢(筋・神経・血管・ホルモン・骨)、酸化損傷度・抗酸化能などの関連性について前学会報告例に症例を加え統計学的検討を行った。

【方法】対象は2006年6月から2009年12月までの間、当院で抗加齢ドックを受診した男性100名、女性99名の計199例である。共通問診表を用いて、上記生活習慣、MetS各々良否2群に分類。検討項目は筋年齢:WBI(体重支持指数)・筋肉率。神経年齢:WCST。血管年齢:ホモシステイン・高感度CRP。ホルモン年齢(調整)IGF-I・DHEA-s・DHEA-s/コルチゾール比等。骨年齢:DEXA法腰椎骨密度。8-OHdG生成速度、酸化ストレス(OSSI)、抗酸化能(STAS)、予防能力インデックス(OSPPI)等との統計学的検討を行った。【結果】食生活に「気をつけていない」群の男性で血清LPOが90.7%高かった(p<0.01※1)。運動習慣なしの群では筋年齢(※1)、骨年齢(p<0.05※2)が高かった。女性でDHEA-sが25.7%低く(※2)、DHEA-s/コルチゾール比が30.2%低く(※2)、ホモシステインが22.3%(※2)高かった。血清LPOが全体で37.2%低かった(※1)。喫煙は血管年齢と有意性があり(※2)、中性脂肪が22.8%高く(※2)、ホモシステインを21.1%増加させた(※2)。男性で骨密度を7.5%低下させ(※2)、女性で14.0%低下させた(※1)。OSPPIを67.9%低下させ(※2)、WBIを8.6%低下させた(※2)。飲酒はアディポネクチンを22.5%低下させた(※1)。OSSIは男性で15.4%高く、女性で11.1%低かった(※2)。心の症状のある群の女性で空腹時血糖が7.4%高かった(※2)。MetS群の男性で骨密度が10.8%高く(※2)、女性で骨密度17.2%低く(※2)、尿中デオキシピリジノリンは48.0%高かった(※2)。Mets群で加速度脈波速度は有意に高かった(※2)。OSPPIを45.4%低下させた(※2)。【考察】今後、さらに臨床検査データの統計学的検討を重ね科学的エビデンスを確立し抗加齢医療を推進発展させていくことが大切である。



### 酸化ストレス度 —喫煙—

■ P<0.05  
■ P<0.01



### 酸化ストレス度 —食生活—

■ P<0.05  
■ P<0.01

